

第17回 日本バイオセーフティ学会総会・学術集会プログラム

会期：2017年12月11日（月）～12日（火）

会場：ソリッドスクエアホール（ソリッドスクエア川崎 B1F）

12月11日（月） 1日目

受付：10時00分～

開会挨拶 [11時00分～11時05分]

学会長 國島 広之（聖マリアンナ医科大学）

教育講演① [11時05分～12時30分]

座長：倉根 一郎（国立感染症研究所）

- 1) 『国際緊急援助隊・感染症対策チームによるコンゴ民主共和国における黄熱対策支援』
国立感染症研究所 下島 昌幸
- 2) 『レストンエボラウイルス感染症』
国立感染症研究所 福士 秀悦

総会 [13時15分～13時45分]

ワークショップ① 実験室バイオセーフティガイドライン [14時00分～14時40分]

座長：倉田 毅（国際医療福祉大学塩谷病院） 杉山 和良（国立感染症研究所）

国立感染症研究所 篠原 克明

一般演題 [14時40分～15時40分]

座長：北林 厚生（イカリ消毒株式会社） 児玉 栄一（東北大学）

- 1) BSC 屋外排気における単独排気の有効性
株式会社日立産機システム 小野 恵一
- 2) 病原体輸送時のヒヤリハットに関する調査
国立感染症研究所 伊木 繁雄
- 3) 輸入感染症における検査キットの取り組み
アリーアメディカル株式会社 奥平 佑也
- 4) 当院の細菌検査室におけるバイオセーフティの現状と課題
聖マリアンナ医科大学 山崎 行敬

教育講演② [16時00分～16時45分]

座長：加來 浩器（防衛医学研究センター）

『日本脳炎－感染制御への道－』

神奈川県衛生研究所 高崎 智彦

イブニングセミナー [16時45分～17時45分]

座長：金光 敬二（福島県立医科大学）

『感染症クライシスへの対応 ―感染制御ソーシャルネットワークの重要性とその意義―』

東北大学

賀来 満夫

懇親会 [18時00分～20時00分]

12月12日（火） 2日目

受付：8時30分～

シンポジウム① 薬剤耐性（AMR） [9時00分～10時30分]

座長：金光 敬二（福島県立医科大学） 長沢 光章（国際医療福祉大学）

1) なぜ今、AMR 対策が必要なのか

国立国際医療研究センター病院

具 芳明

2) AMR 対策における微生物検査室の役割

東京大学病院

佐藤 智明

3) AMR 対策アクションプランにおける薬剤師の役割

東北労災病院

中居 肇

4) 総合川崎臨港病院・訪問診療における感染予防・管理

総合川崎臨港病院

渡邊 嘉行

招待講演① [10時30分～11時20分]

座長：竹村 弘（聖マリアンナ医科大学）

『予防と感染対策に重要な抗生物質耐性グラム陰性菌の現状と今後の課題』

東邦大学

石井 良和

招待講演② [11時20分～12時10分]

座長：森川 茂（国立感染症研究所）

『動物および環境由来耐性菌の現状と課題』

酪農学園大学

田村 豊

ワークショップ② 実験動物のバイオセーフティ [13時10分～14時00分]

座長：棚林 清（国立感染症研究所） 伊木 繁雄（国立感染症研究所）

1) バイオセーフティ実験室：スイート実験室（BSL3・ABSL3）

NPO 法人バイオメディカルサイエンス研究会

北林 厚生

2) 実験用サル類の病原体検査

一般社団法人予防衛生協会

角田 薫

教育講演③ [14時10分～14時40分]

座長：山西 弘一（阪大微生物病研究所）

『麻疹排除後の状況と課題』

国立感染症研究所

駒瀬 勝啓

シンポジウム② 新興再興感染症への医療機関・行政との連携 [14時40分～16時10分]

座長：岡部 信彦（川崎市健康安全研究所） 國島 広之（聖マリアンナ医科大学）

1) ブラインド訓練の意義

川崎市健康安全研究所

三崎 貴子

2) ブラインド型感染症対応訓練における保健所の役割について

川崎市健康福祉局保健所

林 露子

3) 受入れ医療機関の立場から

聖マリアンナ医科大学

竹村 弘

4) 研究所検査部門の立場から

川崎市健康安全研究所

松尾 千秋

5) バイオセーフティの立場から

国立感染症研究所

杉山 和良

開会挨拶 [16時10分]

学会長 國島 広之（聖マリアンナ医科大学）